

今それを、自分の持っているもので

日本キリスト教団大阪大道教会牧師

鈴木 貴博

だから、今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思ったとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。

進んで行く気持があれば、持たないものではなく、持っているものに応じて、神に受け入れられるのです。

(コリントの信徒への手紙二 8章11-12節)

最近、「～ファースト」という言葉をよく耳にします。皆さんもニュースや SNS で見たり聞いたりしていると思います。自分の国優先、自国の経済優先、他の国や人の事はどうでもよいという風潮が今、急速に高まっているように思います。その結果、国同士がギクシャクして緊張が高まっています。

戦争が続いている国々もありますが、そちらもなかなか終わりそうにありません。私たちが住んでいる国はそれらの戦争からは遠く離れていますが、今の世界の事をどう考えるべきでしょうか？

今日はこういう世界状況の中で、今日の聖書の言葉から「なぜ私たちは自分ファーストではなく、助け合うべきなのか？」という話をしたいと思います。

この間、私が住んでいる町の小学校の校長先生がご便りでこんなことをお書きになっていました。「では、戦火から遠く離れた日本の子どもたちは、平和と言えるのでしょうか。確かに、戦争という定義で考えると、平和なのかもしれません。しかし、子どもたち同士の間では、いじめをはじめとして様々な^{いさか}いやトラブルが起っています。直接暴力を振るわなくても、言葉で誰かを傷つけたり、自分の理屈でわがままを通したりと、平和とは言えないことも多いのではないのでしょうか。そう考えると、戦争も子どもたちのトラブルも、たった一つのことができれば回避も解決もできるのだらうに、と思ってしまいます。それは、「相手のことを思いやる気持ちをもつことです。」・・・こう、書かれていました。

ところで「コリントの信徒への手紙」と題されたこの手紙、これを書いたのはパウロという人ですが、コリントという町（現在のギリシャにあった都市）にあった教会に宛てこれを書きました。

この教会とパウロは強い信頼関係で結ばれていたようですが、彼がここを去った後、教会の中ではゴタゴタが起きて、分裂状態にあったようです。ゴタゴタというのは、教会の中で誰が一番優れているとか、誰が一番恵まれているとか、つまりみんながいわば「自分ファースト」を主張して揉めていた、ということです。

パウロはこうした人たちに向けて意見を述べます。「いや、あなたたちはみんな、言葉や知識、お互い思いやる気持ちなど、もう十分豊かであるはずでしょう。なのになぜこの上、人から奪おうとしたり、人を傷つけたりする必要があるんですか」、そう主張します。更にパウロは続けます。「私たちの主

イエス・キリストはあんなに豊かだったのに、自らの命を惜しまないほど貧しくなったのは、あなたがたが豊かになるためだったはず。それほどまでにイエスはあなたがたに与えました。あなたがたもそんなイエスにならって奪うことによって貧しくなるのではなく、与えることでお互い豊かになろうと決心したのではなかったのですか」と、問いいただいています。その上でパウロはこう訴えるのです、「あなたがたのすべきことは『自分ファースト』ではなく、他人を思いやる事。助けあう事である」と。それが分かっているならあとはもう、今日の聖書の言葉にある通りです。

「だから、今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思ったとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。進んで行く気持ちがあれば、持たないものではなく、持っているものに応じて、神に受け入れられるのです」パウロがいう「自分が持っているもの」は、きっと、皆さんにもあるはずです。ならば「今それを実行するべきだ」とパウロは言っています。

先ほど紹介した校長先生のお便りは次のように結ばれています。「この夏、あちらこちらで『平和』という言葉が聞かれると思います。世界や自国の平和だけでなく、身の回りの平和にも目を向けると、それが日常の生活の中で、ものすごくたくさんの積み重ねの上に成り立っていくことがわかんと思います。そうした思いを私たちが伝え続けていくことが、やがて大きな平和につながっていくのではないかなと考えました」。

私たちが今、手にしている平和、つまりこれまでたくさんの方が大変な思いをして積み重ねて与えてくれたものを、今度は私たちに託されているのだと思います。皆さんにも「今それを、自分の持っているもので」他の人たちに与えていってほしいと願います。それはパウロが古代の教会の人たちに伝えたもの、「イエス・キリストを通して神が与えてくださった平和であり、他人を思いやる愛」と同じだと思うのです。

「なぜ私たちは自分ファーストではなく、助け合わなければならないのか」、これは孤立しない為です。孤立すれば人は他の人のことが疎ましくなったり、妬ましくなったりします。すると他人を傷つけたくなる衝動に駆られます。もし、その衝動を抑えられずに人を傷つけ合うようになってしまえば、その先にはすぐ戦争が待っています。ならば、たとえ今、平和だとしても、私たちの国はまだ、あの戦争から 80 年しか経っていないと考えるべきではないでしょうか。

けれども、私たち一人一人が「今、自分の持っているもので」行動すれば、平和な時代をこれからも積み重ねていくことは可能だと信じています。

皆さんにとって、この夏が平和で有意義なものでありますように。お祈りします。

お祈りいたします。 神様、あなたが今も私たちに多くの恵みを与えて下さり、生かして下さっている事に感謝します。これからも私たちを、それぞれに与えられた賜物を生かし、平和を求める者としてください。アーメン。